

PRESS RELEASE



全日本ラリー選手権第4戦 MSCC東京ラリー結果リリース

リタイヤから多くを学んだ東京ラリー、次のひむかラリーは期待大

1. 概要

開催日: 2007年6月1日~3日

SS総距離: 約100km (15本 オールグラベル)

天候: 晴れ (15°C~25°C)

主催: MSCC

エントリー数: 70台 (東日本選手権出場者含む)

2. ラリーの展開

6月23日午前9:08にスタートした炭山、松井組は、SS1に向かうところでクルマに違和感を感じた。チェックして見ると、タイヤのエア漏れが発生していた。直ぐにタイヤ交換を行ったが、これでスペアタイヤは無くなってしまった。SS1(14.22km)は、慎重に走りすぎ、12番手。SS2は少しペースを上げ6番手。SS3は、スペアータイヤが無いこと考え慎重に走っていたにも関わらず、バーストを起こしてしまった。それも2本も。クルーも自分達に今起きている事実が信じられなかった。下がるモチベーションを奮い立たせラリーを続行。車両に無理をかけないように走行しながらSS4に向う。ここはショートコース(500m)のためタイム差はそんなに開かないで、サービスパークに戻ってきた。サービスパークに入る前にメカニックの小野沢が車両の確認をして我が目を疑った。右フエンダー、バンパーと取れかかっている。ちょっと見ただけでも車両のダメージの大きさは想像出来た。規定のサービス時間45分間に渡りプロの技術を出し切り、セクション2にフルアタックを駆けらる状態まで車両の修復が出来た。クルーの目に再び闘志の炎がともった。セクション2のスタートを待つ間、エンジニアと今後の展開を入念に打ち合わせをし、その作戦通りに走っていたクルーに、SS6で再びバーストが襲った。さらに、SS7でまたバーストが発生。サービスパークに戻れたのが不思議なくらいの状態で、慎重にクルマを、サービスに戻ろうと激闘するクルー。サービスパークに戻った車両は相当傷んでいた。ここでメカニック3名は、プロの技を息をするのを忘れる位発揮した。規定時間ギリギリで、クルマは完璧に修復が出来た。明けて6月3日、Leg2のスタート時間は早く6:44分スタート。SS9の5.01kmでベストタイムをマーク。やっとクルーの気持ちが少し晴れた。SS10は前走車トラブルのため同一タイム。SS11で再びベストタイムマーク。しかし、昨日からの車両への過度の負担の影響下ここでミッショントラブルが発生。ついに車両がストップしてしまった。クスコチームのMSCC東京ラリーはSSベストタイムをマークするのと同時に終わってしまいました。サービス隊もクルーも本当に大きなそして数々の試練を乗り越えたラリーでした。結果はリタイアと悔しい結果でしたが、今後に繋がる勉強が出来たラリーだったように思います。応援していただいた皆さん本当にありがとうございました。また次戦宮崎ひむかラリーは是非とも優勝を目指してがんばります。

参戦イベントと結果

出場イベント	日時	総合順位	クラス順位
1 ツールド九州	4/13~4/15	5	5
2 久万高原ラリー	4/28~4/30	—	—
3 ひよしラリー	5/18~5/20	—	—
4 東京ラリー	6/1~6/3	リタイア	リタイア
5 R10Nラリー	6/22~6/24		
6 ラリー北海道	7/6~7/8		
7 FMSCラリー	8/24~8/26		
8 ラリー赤井川	9/21~9/23		
9 ハイランドマスター拉	10/12~10/14		
10 新城ラリー	11/9~11/11		
WRC JAPAN	10/26~10/28		

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャロッセ 担当 林 TEL:027-352-3578 FAX:027-352-1919
mailアドレスhayashi@cusco.co.jp



